５年生保護者様

子どもたちの未来のために　第４号

～選べる道を増やすには～

令和２年　５月　１日㈮
港区立赤坂小学校
校長　齋藤　恵
５年学年主任　保坂　司

伸びるのはどんな子④　～　「無駄なこと」に打ち込むことが力になる

◎テレビ番組「博士ちゃん」

「博士ちゃん」という番組をご存じでしょうか？専門家でも驚くほどの知識・蘊蓄（うんちく）をもっている小学生や中学生を取り上げている番組です。「お城博士」「野菜博士」「桃太郎博士」「お魚博士」等がこれまで紹介されてきました。その博学さには毎回驚かされますが、反面、子供は、本来そういう存在だろうとも感じています。昔はクラスに「博士」がたくさんいました。今は少ないからこそ、逆に「博士」が目立ってしまうのでしょう。（ソーシャルネットワークの普及で「博士」が発信をしやすくなったというのも理由ですが、それでもその数は以前ほどではありません。）現代は「そんなことをする暇があったら、勉強でもしなさい。」と言われかねない時代なのです。「博士」たちは一様に学力が高く、授業中も意欲的なのに…です。

◎「博士」がもつ力

高い能力・知識をもつためには、①意欲的であり、他者が見逃すことにも②興味をもち、気になると③とことん調べ上げ、④繰り返し検証し、⑤きちんとまとめることが必要です。これは、学力を伸ばすための必要十分条件です。「博士」たちは、毎日の趣味を通して、学力向上に必要な力を獲得し発揮しているわけです。私事で恐縮ですが、私は「切手」博士でした。①～⑤を常に行っていました。日本の切手の歴史を調べる過程で、明治維新の知識を得ました。切手のデザインを調べる過程で、日本の美術や行事などの文化を知りました。世界の切手を調べることで、世界中の国について学びました。趣味から派生して、もっと広く、もっと深く多くのことを学んでいけるのです。

◎「博士」がもつ雰囲気・態度

TV 番組「博士ちゃん」を見て、気が付いたことがもう一つあります。どの子も同じ「雰囲気」を纏（まと）っているのです。元メジャーリーガーのイチロー選手、将棋の藤井七段、ノーベル化学賞の吉野博士がもつ雰囲気と同質のものです。努力・研鑽（けんさん）をし、高いレベルに到達している者が自然と身に纏うオーラです。学ぶ楽しさを知り、膨大な知識があることを知り、知識を得るために努力が必要なことを知り、さらに学んでいく決意をしたものがもつ雰囲気です。面白いことに、そういう人たちは、自信・自負と同時に、謙虚さももち合わせるようになります。さらに上がある、学びに終わりはないという思いが謙虚さを生むのでしょう。

謙虚さを獲得すると、態度面では「礼儀正しい」「相手の立場を尊重する」「できない、知らないことを責めない」「できなことを他者のせいにしない」という行動をとるようになります。「博士」になると、自信ある行動はするが、ひけらかしたり自慢したりという行動はとらなくなるのです。

◎学力が高い子（「博士」）は、「無駄」「余計」なことをする

子供たちが学習をしたときに、そこから派生した、授業内容とは全く関係のないことに興味を示すことが、学力を向上させるカギだと思っています。学ぶときに大切なことは「興味関心」「主体性」だからです。教科書で「月と太陽」を習ったら、そこから「他の星は？他の銀河は？ブラックホールは？」とどんどん調べていきたいと思う気持ちが大切です。それができる子は「博士」になれる資質や素養があるのです。

また、他者からすると意味がない、価値がないというものに、意味や価値を見出す力も「博士」には必要です。例えば、石に興味をもつ子がいたとします。私が見ても「？」と思う石に価値を見出すことができるのは、素晴らしい感性をもっているのです。私たち大人ができることは、それを認め、正しく評価し、さらに良い方向に導いていくことです。「そんな無駄なことしない！」とくれぐれも言わないようにしていきたいものです。

＊ちなみに臨時休校用の課題には、子供たちの好奇心をくすぐるようなものを出しています。興味をもったら「無駄なこと」もしてほしいです。